

平山豊先生のご退任に寄せて

本 田 義 昭

山口大学独仏文学研究会の中心として活躍してこられた平山豊教授がこの3月定年でご退任になる。私が平山先生に初めてお会いしたのは山口大学旧教養部に赴任した時なので、もうかれこれ三十年前のことである。ちょうどその時期に『山口大学独仏文学』創刊号が刊行されたが、先生がこの度定年でお辞めになると、創刊当時のメンバーでまだ現役なのは私一人になり、時代の移り変わりを改めて強く感じる。

平山先生はフランス語、私はドイツ語とともに初修外国語を担当し、研究室もすぐそばだったので、親しくおつきあいさせていただいた。二人とも独身だったせいで、山口市内のあちこちの食べ歩きに誘ってくださり、食事をしながら外国語教育やヨーロッパの文化について話をさせていただいたことは私の貴重な財産となっている。旧教養部は1996年に廃止され、私たちはともに人文学部へ移籍し、同じ独仏語文化論コース（現在はヨーロッパ言語・文学コース）に所属することになった。平山先生はアラン・ロブ＝グリエなどヌーヴォー・ロマンの研究者として著名であるが、2008年度のノーベル文学賞を受賞したル・クレジオの研究も手掛けておられる。さらに、日仏交流史やフランス美術・映画などフランス文化全般に幅広く通じておられる。ご研究のエッセンスをととても穏やかな話し方で展開される授業には定評があり、フランス語系の学生はもちろん、それ以外の学生をも魅了して止まない。また、山口日仏協会の設立に尽力され、フランス文化の紹介イベントにも積極的に関与され、地域の文化振興にもずいぶん貢献してこられた。

大学の教員には研究、教育と並んで大学運営・部局運営の仕事がある。平山先生は全学組織の外国語センター長や人文学部言語文化学科の学科長などの要職を歴任された。これらほど重要な職ではないが、私は先生と何度かいっしょに仕事をする機会があった。旧教養部時代の1993年の夏休みに、中四国地区国立大学の一般教育の共同授業を山口大学の主催で山口市郊外の徳地町（現山口市）の青少年施設に数日間合宿して行ったことがある。学生・教職員を合わせて約150名の参加者がこの数日間を有意義に過ごせるよう、実行委員長の平山先生の指揮の下私たち実行委員は奮闘努力し、無事成功裡に終わらせることができた。2003年から2年間私は、人文学部就職支援委員長の平山先生の下で補佐をさせていただいた。その頃はまだ就職難が続いていたが、学外から講師をお招きしたり、官公庁

や民間企業に内定している4年生に就活報告会で自分の就職活動を下級生の前で発表させるなど、平山先生は毎月のように様々な就職イベントを企画され就職支援活動に尽力された。その甲斐あって人文学部の就職状況は上向きに転じ、後任の私は平山先生が敷かれたレールをただ走るだけでその傾向を維持することができた。今年度私は平山先生の下で人文学部国際交流委員を務めている。表面には出ないものの、留学生の派遣や受け入れに際していくつもの問題が起きている。その度に委員会が開かれ問題解決にあたっているが、平山先生は会議で出た種々の意見をうまく取りまとめ、迅速にかつ公正に最善策を講じてこられた。私にとっては大変な激務を先生はいつも楽々とこなしておられ、ただ感心するばかりである。

平山先生が山口大学を去られるのは私たち独仏文学研究会にとっては大変辛いことであるが、定年後は日々の雑用に追われることなくご自身のライフワークに取り組まれることであろう。それを思うと私はとても羨ましい。平山先生、長年のお勤め大変お疲れ様でした。これからもお元気でご活躍され、私たち後輩をご指導ください。